

(いわゆる計画系と構造系)を網羅する内容を教える国は少ない。欧米のSchool of Architecture (建築学部)ではアーキテクトを養成することが目標であり、そのカリキュラムはArchitectural Designを中心に構成され、それを補強するために各種の講義科目(レクチャー)が配列されている。日本ではどの大学でも建築設計を核としてその周りにいろいろな科目を配列する方法はとられていない。もし欧米式にするならば、各学年当たり、週2~3回のStudio Work(設計作業)が必要である。

前述した一級建築士の試験は、その内容を世界的に見ると「水準」は低い。A-2版の用紙に配置図兼1階平面図1/200、断面図1/200をわずか5時間30分の中で仕上げるのが要求されるだけであり、設計対象も図書館、集合住宅、美術館、コミュニティセンターなどが出題されている。この試験ではアーキテクトにとってもっとも重要なコンセプトとデザインは表現できない。

この意味で設計教育が建築士試験を対象とするには試験の水準が低すぎる(それでも、現実には学科試験合格者の1/2は例年不合格となる)。しかし、水準が低いからといってこの資格を無視することはできない。この小冊子の内容は1~4年次までの建築設計の作品であるが、低学年だから高学年よりも簡単であるということは決していえない。建築設計は建物の種類とか規模によって「難易度」は計れない。学生諸君の作品は多様であるが、模型(Model)を上手につくれるとか、表現(Drawing)がうまい、CADを使えること、などはアーキテクトになる必要条件であるが、アーキテクトになるには+αが必要である。その中で一つの方法を提案したい。学生時代の読書はその人の一生に大きな影響を与える。建築だけではなく文学、美術などの分野についても「本を読むこと」を薦めたい。雑誌はいくら見ても雑誌である。ヨーロッパだけみても建築の歴史は古代ローマから数えても2000年以上となる。現代はこの歴史の上にある。人類が生み出してきた建築は古典書の中にも充満している。20歳代で得た知識は一生忘れない。

段階 学年 必修・選択	コース系	建築学コース			企画経営コース	情報教育
		計画・デザイン・歴史系	構造系	環境・設備系		
発展段階	M2	修士設計 6年完結型				
	M1	建築デザインⅡ (1998年度より実施)				
専門段階	4	卒業制作(卒業設計)			卒業企画設計	
		設計演習Ⅱ 建築 都市 歴史保存 CAD			不動産企画及び演習Ⅱ	
	3	設計演習Ⅰ CAD			企画設計製図 企画経営実習	
		建築設計Ⅲ(1999年度までは「建築設計製図Ⅲ」を実施) デザイン系 技術系			不動産企画及び演習Ⅰ	
基礎段階	2	建築設計Ⅱ(1998年度までは「建築設計製図Ⅱ」を実施)			建築情報処理Ⅱ	
		建築設計Ⅰ(1998年度までは「建築設計製図Ⅰ」を実施)			建築情報処理Ⅰ	
	1	デザイン基礎Ⅱ(1997年度までは「基礎製図法」を実施)			情報処理	
		デザイン基礎Ⅰ(1997年度までは「図学及び実習(選択)」を実施)			コンピュータリテラシ	

日本大学理工学部  
建築学科  
設計教育の全体像

関澤 勝一

建築学科に入学すると「建築設計」(昨年までは建築設計製図と呼ばれていた)という科目が必修として学生を待ちかまえている。理工学部には多くの学科が設けられているが、建築設計に相当する科目を持つ学科はほかにはない。図面を描く科目は土木・機械・電気などの学科にもあるが、それらの学科では「製図」が中心である。建築学科では1年次のデザイン基礎Ⅰ・Ⅱの上に2年次と3年次前期までの建築設計Ⅰ・Ⅱ・

Ⅲがあり、さらに3年次後期と4年次前期には選択科目として将来、設計(デザイン)の分野に進む学生を主対象として設計演習Ⅰ・Ⅱがある。この線上に大学院修士課程(現在は博士課程前期と呼ばれている)のデザインコースとして1年次前期・後期に建築デザインⅠ・Ⅱが設けてある。この学部と大学院マスターコースを連結して大学レベルでの建築設計教育は5ヶ年制となる。これによって近い将来に建築家教育が世界的に最低5年となるのが論議されているが、そのような場合にも十分に対応できるようになっている。グローバル化は経済の分野だけではなく

建築(アーキテクチャー)の分野にも迫っている。日本の一級建築士の資格もグローバル化の中で再検討されることになるであろう。ここで一級建築士のことに簡単に触れておきたい。現在は大学学部卒業後、2ヶ年の実務経験(プラクティス)を経れば、二級建築士を取らずに直接、一級建築士の受験資格を得られる。工業高校卒業は二級を取った後に一級を取るが、大学では直接一級を受験することになる。大学学部を卒業して3年目に国家試験(この試験は法律で定められており、世の中に数多くある、いわゆる認定試験とは異なる)を受験できることは建築学科の

特色の一つである。この法律は戦後間もない今から48年前の昭和25年に国会で成立したものである。昭和40年代の前半までは比較的合格率が高かったが、それ以降は建築士の人数が多くなり、現在の合格率は全国的に極めて低く難関の国家試験の一つになっている。理工学部建築学科の設計教育では、3年前期の建築設計Ⅲは一級建築士の設計試験(学科試験に合格した者が受験者となる)を十分にクリアーできる内容となっている。Architect(アーキテクト・建築家)の教育は世界各国それぞれの背景をもっているが、日本のように総合的に広範囲な分野